

私の辞書たち (3000 文字)

2022.09.01 Rottiy Yashiro

私の学習机には、たくさんの辞書が置いてある。机を買ってもらった小学校入学の頃は国語辞典と漢字辞典だけだったが、今では英和辞典・古語辞典・和英辞典・漢和辞典が加わっている。学校のロッカーに置いているものもある。今回は、私の持っている辞書について、良いところはもちろん、その辞典を使うことになったストーリーを語りたいと思う。

まず、一番使用頻度が高い国語辞典。母が学生時代に使っていたという新明解国語辞典の第三版だ。幼稚園生や小学生の頃は小学生向けの「チャレンジ国語辞典」を使っていたが、中学生になるときに母から薦められて新明解に変えた。中学生になってすぐは、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言で学校に行けなかったため、新明解を1冊家に置いておくだけで十分だった。しかし、学校が再開してから、家で使うものと学校のロッカーに置いておくものの両方が必要になった。その時にやはり新しいものを買った方が良いということになり、学校推薦の「岩波国語辞典」を新しく買った。家よりも学校で辞書を引く機会の方が多いので、より最新である岩波を今は学校に置きっぱなしにしている。

新明解の良いところは、それぞれの言葉にイントネーションが示してあるところだ。これは他の辞書ではないと思う。教科書の論説文に出てきて初めて知った言葉などは、時々正しいイントネーションが分かんなくなる。そんな時に、明確に「ここで上がる」「ここは下がる」などと示してあると、心強い。

岩波の良いところは、何と言っても読みやすいところだ。私は遠視なので、近くが少し見えづらい。眼鏡を掛ければ普通に見えるのだが、常には着けていない。そのため、ニュースで知らない言葉が出て来た時など、眼鏡を探している間に忘れてしまうことがしばしばある。しかし、岩波は行間が広めに空いている上に、心なしか文字も大きい気がする。もちろん目が良いわけではないので完璧には見えないが、数ある国語辞典の中では岩波が一番読みやすいと思う。

国語辞典と同じくらいよく使うのは、英和辞典。家の学習机に置いてあるのはジーニアス英和辞典、学校のロッカーに置きっぱなしにしているのはポケットプログレッシブ英和・和英辞典。英和辞典も、もともとはポケットプログレッシブだけを持っていた。「ポケット」と言うように、厚さは約2cmととても薄い。それでいて和英辞典も入っていて、語彙もとても豊富。私は英検準二級を持っているが、不便に思ったことはない。中学に入って英語を勉強してから約2年間強、これだけを家に置いていた。英語の先生は1年生の時から学校と家に1冊ずつ置くことを推奨していたが、あまり学校で使う必要性を感じていなかった。国語の授業では全員が辞書を引かなくてはならないが、英和辞典は分からない単語があるときしか使わないからだ。また、1年生や2年生の頃は単語がそれほど難しくなかったのも、学校で調べられなくて不便だと思ったことはあまりなかった。

しかし3年生に入ってから、一気に授業中に分からない単語が増えた。私の学校は中高一貫校で、中学2年生までにいくつかの科目は中学課程を終わらせ、中学3年生からは高校課程に入る。中学3年生になって一気に難しくなったと感じたのはおそらくそのためだろう。そうしてついに辞書なしでの授業には耐えられなくなり、学校推薦のジーニアスを買った。ジーニアスとポケットプログレッシブ、どちらを学校のロッカーに置いておこうか迷ったが、ジーニアスは厚さが5cm以上ありロッカーには物理的におけないので、ポケットプログレッシブを学校に置くことにした。

ポケットプログレッシブの良いところは、先ほども述べたが、圧倒的な持ち運びやすさだ。それでいて語彙の数は決して少なくない。和英もついているので、英作文をしていて表現を迷った時に簡単に調べら

れる。ただ、そのコンパクトさがゆえに文字も小さい。遠視の私は眼鏡なしでは見出し語を探すのも難しいほど。実際、学校にいるときはほぼ眼鏡を付けているので、あまり困ったことはないが。

ジーニアスは、王道の英和辞典。重要度順に見出し語の文字の大きさが違う。今学校で習っているのは基本単語ばかりなので、見出し語が大きく見つけやすい。さらに巻末付録には、アメリカやイギリス、オーストラリアが拡大された地図が載っているため、長文読解で地名が出て来た時にイメージがしやすい。他にも人の髪型の表現などが図とともに載っているなど、巻末付録が非常に充実している。

ここからは少し使用頻度が下がるが、3 番目に良く使うのは古語辞典だ。三省堂の「全訳読解古語辞典」の小型版を使っている。私の学校では 2 年生の時は古典の文法を学ぶ。文法が中心であるため、長文読解はあまり多くなく、古語辞典は必要なかった。今年度になってから、本格的に古文を読解するようになった。品詞分解だけでなく、現代語訳も予習の段階でなくてはならない。そうなったときに、古語辞典がないと半分くらいしか現代語訳できないこともある。そのため、今年に入ってからジーニアス英和辞典と同じタイミングで書店に買いに行った。

自分が 2 年生の時に先輩の持ち物を見ると、9 割以上の人が古語辞典はこの三省堂のものだった。同級生でも持っている人がいたが、ほぼ全員が三省堂の全訳読解。先生も推薦辞書だと言っていた。だから、書店についたら迷うことなく手に取った。一応他の古語辞典も見たが、これに勝るものはなかった。

第一に、2 色刷りだから見やすい。補足や注意事項がたくさん載っているが、それらの多くが色分けされているので、どこまでが語句の説明でどこからが補足なのかが一目で分かるようになっている。かといって 2 色刷りなので、カラフル過ぎて目が疲れてしまうなんてこともない。

次に、例文が豊富。例えば、「定む」という言葉には大きく分けて「決める」「議論する」「治める」の 3 つの意味があるが、それぞれに 1 つずつ例文がついている。英和辞典は例文がついていることが多いが、古語辞典はあまり豊富でないことがある。現代語訳をする時に非常に参考になる。

ただ、これには難点がある。予習で訳さなければならない場所が例文に出てくることが多くある。例文の現代語訳も書かれているので、自分で考えなくても現代語訳が書けてしまうのである。そんな時は見て見ぬふりをするしかない。

和英辞典は英作文をする時にたまに使う。父から渡された 40 年物のライトハウス。これと言って「押しポイント」があるわけではないが、「政治」の項目の近くに「派閥」「政権」など政治の言葉が大量にまとめられていて、何かを調べた時に追加で語彙が増えるのは気に入っている。

漢和辞典はこの中で一番の新入り。2 学期から漢文の授業が始まるので一応置いてあるが、9 月 1 日現在ほぼ開いたことはない。明日から早速漢文の授業がある。復習に使うとしよう。ちなみにこれも母が学生時代に使っていたもの。母は大学で中国文学を専攻していたので、これに関してはとても詳しい。後ろに母の友達がしたであろう落書きがある。

ここまで、マイ辞書たちを紹介してきた。これらの辞書は右手で作業をしたままでも取り出しやすいよう、机の左側に固めて置いてある。国語辞典や英和辞典は勉強の時だけでなく、インターネットを見ている時でも使えるので、みなさんも身の周りに辞書を置いてみてはどうだろうか。